

復興便り

～令和2年7月豪雨～



山腹崩壊により土砂等が流入した農地（山鹿市）



土砂が堆積した農地（球磨村）

市街地の浸水状況（人吉市）



被災前

落橋した神瀬橋（球磨村）

7月4日午前11時48分頃撮影（写真提供：熊本日日新聞社）

Ⅰ 降雨の概要

(1) 降水量の総和

- 「令和2年7月豪雨」では、対象地点（全国964のアメダス地点）の降水量の総和について、これまで最多であった「平成30年7月豪雨」の記録を超え、今回が最も多い値（降水量の総和：208,308mm、1地点あたり：216.1mm）となりました。
- また、1時間降水量50mm以上の非常に激しい雨の発生回数について、これまでの記録「令和元年東日本台風」を超え、今回が最も多い回数（82回）となりました。

①降水量の総和（1982年1月上旬～2020年7月上旬）

順位	年	月	旬	降水量の総和 (mm)	1地点あたり (mm)	備考
1	2020	7	上旬	208,308.0	216.1	令和2年7月豪雨
2	2018	7	上旬	207,526.5	215.3	平成30年7月豪雨
3	1985	6	下旬	199,078.0	206.5	
4	2017	10	下旬	191,532.0	198.7	
5	1990	9	中旬	191,325.0	198.5	
6	2014	8	上旬	173,754.0	180.2	平成26年8月豪雨
7	1999	6	下旬	161,027.5	167.0	
8	1995	7	上旬	156,514.0	162.4	
9	1989	9	上旬	154,334.0	160.1	
10	1983	9	下旬	146,924.0	152.4	

※備考欄には気象庁が名称を定めた気象現象を記載 気象庁HPから引用

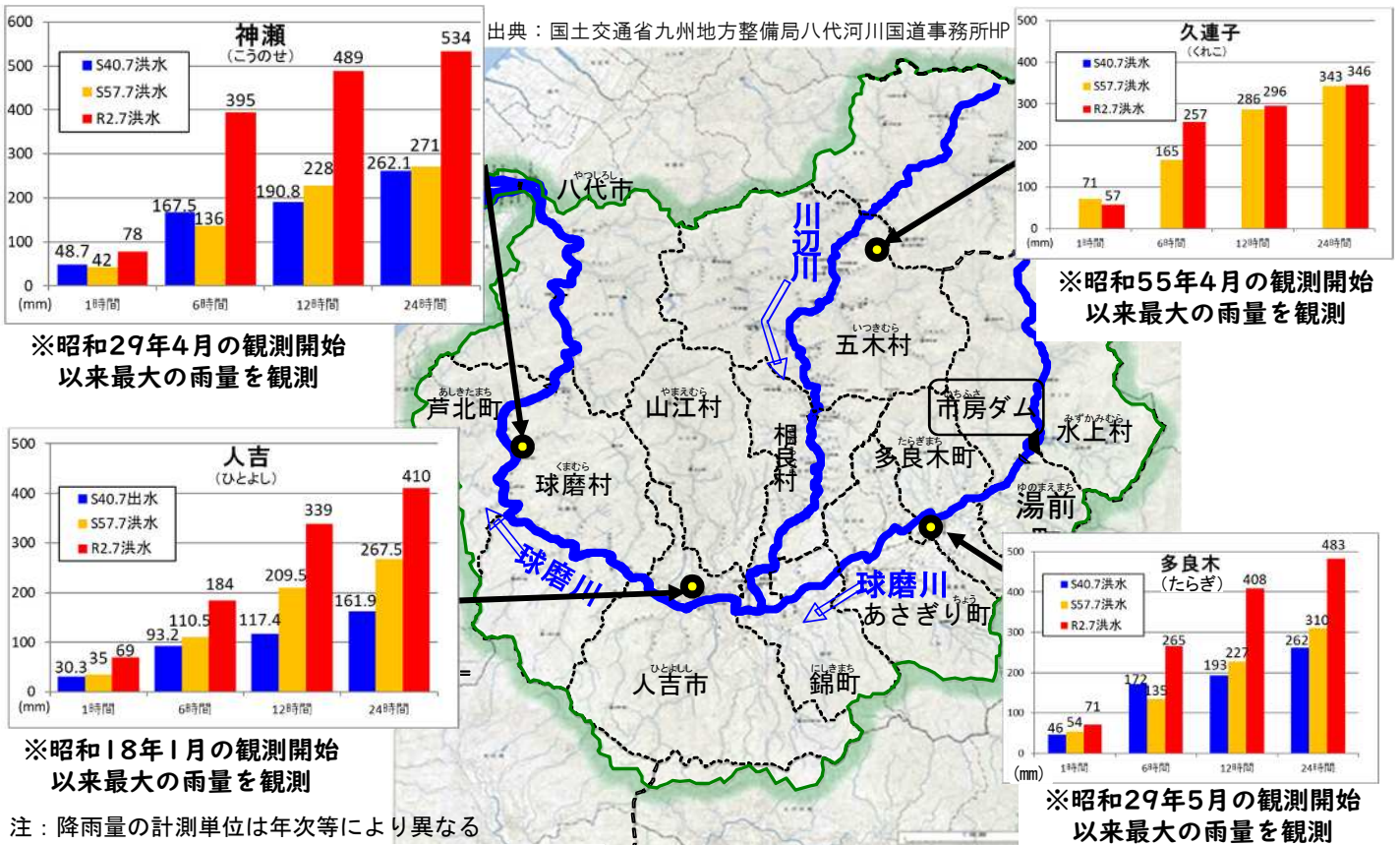
②1時間降水量50mm以上の発生回数（1982年1月上旬～2020年7月上旬）

順位	年	月	旬	発生回数	備考
1	2020	7	上旬	82	令和2年7月豪雨
2	2019	10	中旬	69	令和元年東日本台風
3	1993	9	上旬	67	
4	1998	9	下旬	66	
4	2012	7	中旬	66	平成24年7月九州北部豪雨
4	2018	7	上旬	66	平成30年7月豪雨
7	2014	8	上旬	65	平成26年8月豪雨
8	2016	9	中旬	59	
8	2017	9	中旬	59	
10	1990	9	中旬	58	

※備考欄には気象庁が名称を定めた気象現象を記載 気象庁HPから引用

(2) 球磨川流域における観測雨量

- 球磨川本川の中流部から上流部及び最大支川の川辺川の各雨量観測所における降雨量は、6時間、12時間、24時間雨量において、戦後最大の洪水被害をもたらした昭和40年7月洪水や昭和57年7月洪水を上回る降雨を記録しました。



2 熊本県における被害の概要

(令和2年11月24日時点)

被害状況

被害区分	状況	備考	
人的被害	死者数	65人	
	行方不明者数	2人	
	負傷者数	37人	10月30日時点
	計	104人	
住家被害	全壊	1,476棟	10月30日時点
	半壊	3,057棟	〃
	床上浸水	744棟	〃
	床下浸水	637棟	〃
	一部損壊	1,867棟	〃
	計	7,781棟	〃
孤立集落 (県南地域のみ)	孤立集落	166集落	8月12日に全て解消
ライフライン被害 (ピーク時)	断水	約28,000戸	
	停電	8,840戸	
	LPガス設備	約3,700戸	被災地域に都市ガスなし
	固定電話影響回線	39,770回線	NTT西日本
	携帯電話停波基地局	269局	NTTドコモ、KDDI (au)、ソフトバンク
交通インフラ被害	道路	804路線	県、市町村(国は未公表)
		2,183ヶ所	県、市町村(国は未公表)
	橋梁流失	16ヶ所	橋脚のみ流失2橋含む、鉄道管理橋梁除く
	鉄道(3路線)	597ヶ所	JR九州:450、くま川鉄道:55、肥薩おれんじ鉄道:92
文化財被害	国指定(登録を含む)	34件	建造物、史跡等
	県指定	9件	建造物、史跡、美術工芸品等
	市町村指定	40件	建造物、史跡、美術工芸品等
	計	83件	
災害廃棄物等発生量	災害廃棄物発生量	約37万トン	推計値
	海岸漂着物(流木等)	43,158㎡	建設海岸:15,492㎡ 港湾海岸:1,792㎡ 農地海岸:17,094㎡ 漁港海岸:8,780㎡
	宅地内堆積土砂	調査中	

被害額(概算)

項目	被害額	備考
建築物(住宅関係)	1,668億5,353万円	住家、家財(宅地は含まない)
水道施設	4億2,151万円	送配水施設、取水施設、浄水施設
医療・福祉関係施設	68億3,311万円	医療施設、社会福祉施設等
公共土木施設	1,451億8,072万円	道路、橋梁、河川、海岸、港湾、下水道等(国直轄分は含まない)
文教施設(文化財除く)	30億7,011万円	学校、社会教育施設等
その他の公共施設等	108億4,414万円	県有施設、市町村庁舎、公営住宅、自然公園施設等
公共交通関係	56億6,740万円	鉄道(JR九州は調査中)、路線バス等
農林水産関係	1,019億4,478万円	農地・農業用施設、山地崩壊、農林水産物等
商工・観光関係	699億6,900万円	建物・設備等
文化財	18億4,000万円	国指定、県指定、市町村指定及び国登録文化財
廃棄物処理	204億5,000万円	し尿処理施設、災害廃棄物処理費用
計	5,329億6,302万円	

※被害状況・被害額は現時点で判明しているものであり、調査の進捗等により、変動する可能性がある。

写真提供：JR九州

寸断した国道219号(球磨村)



人吉方面

八代方面

流失した第一球磨川橋梁(八代市坂本町)

冠水した人吉温泉駅構内(人吉市)



浸水した住宅(球磨村)



洪水痕跡



被災直後の商店街(人吉市)

▲過去に宅地かさ上げした家屋が4m程度浸水
出典：国土交通省九州地方整備局八代河川国道事務所HP

3 農地等の被害の概要

- 令和2年7月豪雨では、熊本県の県南地域を中心に県内全域で被害が発生しました。
- 件数は**15,195件**、被害額は**405.5億円**となっており、過去最大の被害を出した「平成28年熊本地震」に次ぐ**甚大な被害**となりました。

令和2年7月豪雨災害の被害件数と被害額

区分	件数	被害額
農地	11,023件	20,392百万円
農業用施設	4,166件	20,018百万円
地すべり防止施設等	3件	140百万円
生活関連施設等	3件	2百万円
計	15,195件	40,552百万円

(参考1) 過去の農地等被害額の順位

順位	年	被害報告額	気象庁が定めた気象現象等
1	H28	910.6億円	平成28年熊本地震
2	S57	182.3億円	昭和57年7月豪雨
3	H24	172.2億円	平成24年7月九州北部豪雨
4	H2	166.1億円	
5	S47	129.6億円	昭和47年7月豪雨
6	S63	112.8億円	
7	H5	101.6億円	平成5年8月豪雨
8	H18	85.7億円	平成18年7月豪雨
9	H9	83.9億円	
10	H11	72.8億円	

農道法面の崩壊（芦北町）



(参考2) 直近11年間の被害額

年	被害報告額	気象庁が定めた気象現象等
H21	8.7億円	
H22	4.1億円	
H23	19.5億円	
H24	172.2億円	平成24年7月九州北部豪雨
H25	4.9億円	
H26	5.7億円	
H27	25.1億円	
H28	910.6億円	平成28年熊本地震
H29	20.9億円	
H30	28.2億円	
R1	20.8億円	
平均	31.0億円	※H28を除く

(昭和47年から令和元年までの上位10位を表示)

頭首工の破損（人吉市）



清願寺ダム湖への土砂流入（あさぎり町）

土砂が流入した農地（芦北町）

4 農地等災害復旧に係る市町村支援

- 市町村のニーズを踏まえ、フェーズに応じたきめ細やかな支援を行うことで、復旧を加速化。
- 市町村においては、支援を受け復旧に取り組むことにより、今後の災害対応力を強化。

被災直後

被害調査の代行

芦北、球磨管内で市町村に代わって被害調査を実施。
 ≪延べ354人(県136人)≫

被害状況の「見える化」

代行した被害調査結果をくまもと農地GISで見える化。
 ≪延べ86人(県83人)≫

NNキャラバン

市町村等を訪問し、復旧関係の各種制度等の説明会（NNキャラバン）を開催。
 ≪延べ17人(県17人)≫

	人的支援	技術的支援
国	球磨地域市村へ4人の職員派遣	国営川辺川地区の受益市町村のうち、特に被害規模が大きい市村において、技術的支援を実施。 相良村の棚葉瀬揚水機場応急復旧を、国と県で支援。
県	芦北・球磨地域振興局に5人配置	◎技術職員不足の補完 市町村への災害実務の総合調整など技術的支援を実施。 ◎県営による復旧（9地区） 復旧に高度な技術力を要する9地区の災害復旧事業を県で実施。
水土里ネット熊本	球磨地域市村へ4人の職員派遣	査定資料等の作成や、現場管理等の市町村業務を担い、各市町村の技術職員不足を支援。



県による被害調査

NNキャラバン

水土里ネットによる被害調査 (ドローン)

5 復旧・復興へのロードマップ

	フェーズ1 (発災後概ね 1週間~10日)	フェーズ2 (発災後概ね 11日~1ヶ月)	フェーズ3 (発災後概ね1ヶ月 ~R2年度中)	フェーズ4 (R3年度以降)
市町村支援	被害調査の代行		被災地域への職員派遣	
農地等災害 復旧事業	応急工事(本工事、仮工事)		査定、補助率増高、工事、 変更協議 (熊本型簡素化査定)	
防災重点ため池	緊急点検(248箇所)	応急措置、点検パトロール、復旧工事		
農業用水の確保	未通水箇所の現地調査、被害の見える化		用水確保に向けた支援、進捗管理	
多面的機能支払 交付金を活用した 自力復旧	制度周知(NNキャラバン)		交付金を活用した自力復旧支援	

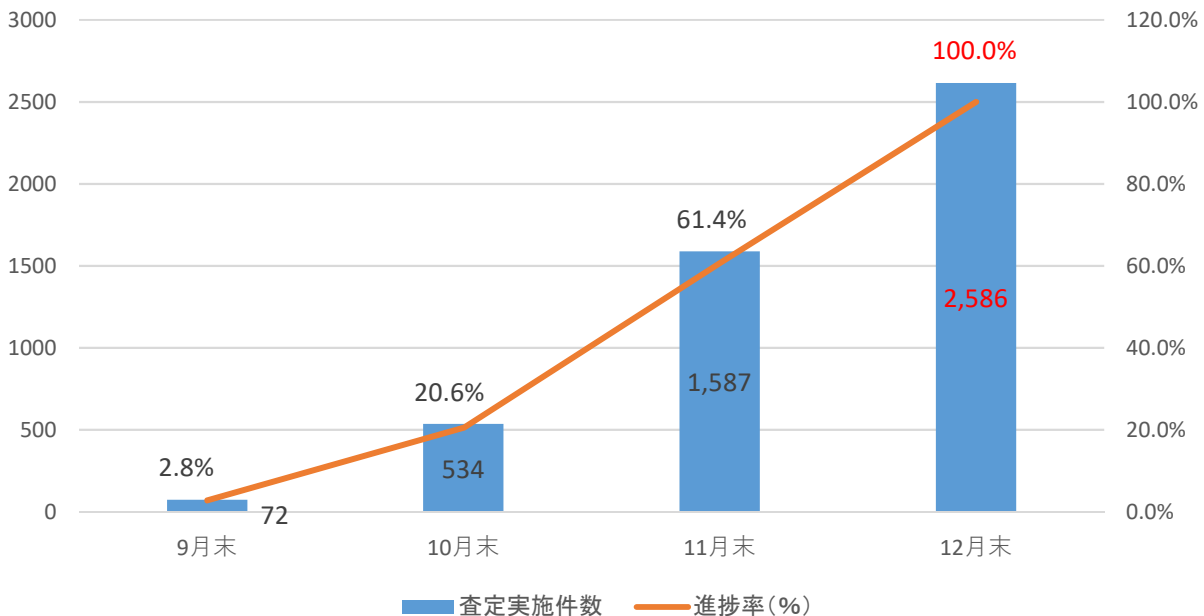
【査定の進捗状況】 (令和2年12月11日時点)

	9月末	10月末	11月末	12月末 (予定)
査定実施数	72件	534件	1,587件	2,586件
進捗率	2.8%	20.6%	61.4%	100.0%

多面的機能支払交付金を活用した用水路の自力復旧状況



災害査定進捗状況



6 熊本型簡素化査定

(1) 概要

- 発災直後の被害調査資料を基に概算金額等を算定し査定を行うもの。
- 既存の航空写真や「くまもと農地GIS」データ等を活用して査定申請資料（平面図等）を作成。
- 甚大な被害を受けた、人吉市、球磨村、芦北町において採用。

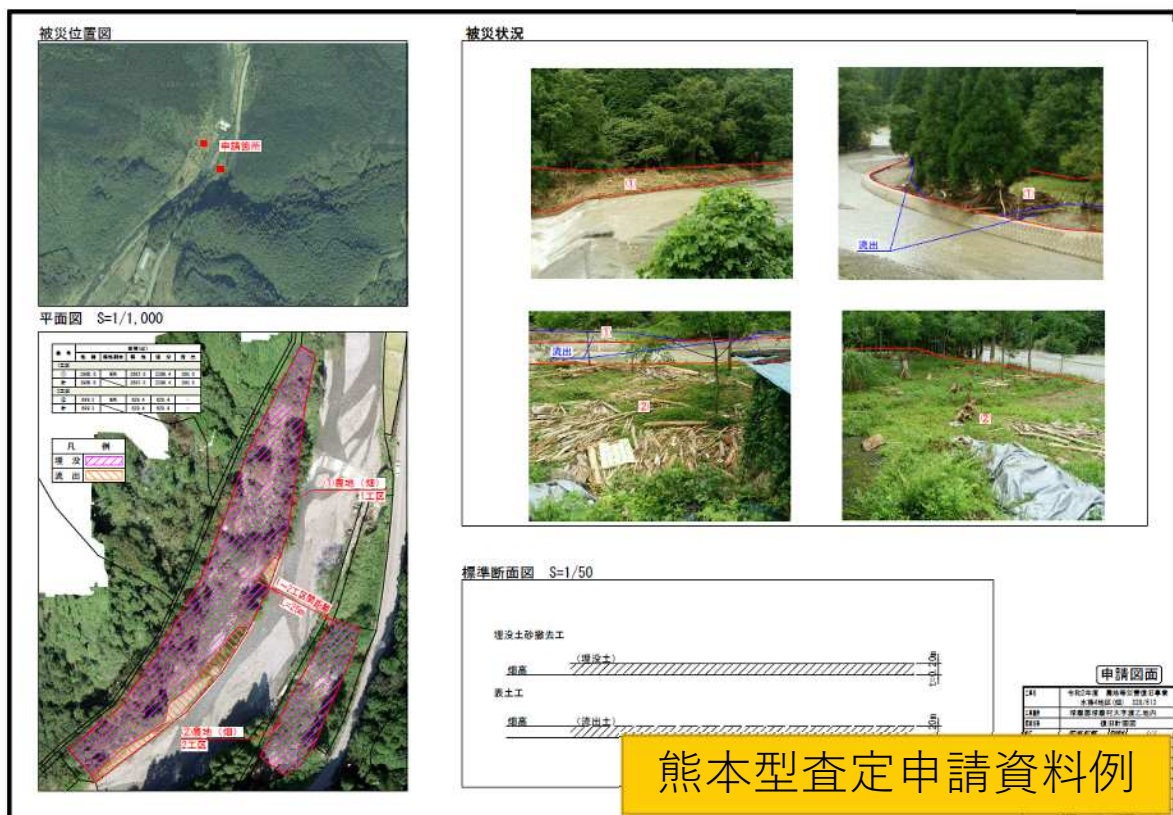
(参考)

・通常査定

…箇所毎に測量設計、写真撮影を行い査定を受ける。

・これまでの簡素化査定

…箇所毎に全景写真や標準断面図など簡易資料を作成し査定を受ける。



(2) 特徴

- 査定設計書作成のために改めて現地に行く必要がなく、査定準備に係る**大幅な時間短縮**が図られる。
- 大規模災害時においても**年内査定完了**が可能となる。
- 発災以降、膨大な業務を抱えるコンサル業界においても対応可能。

(3) 今後の業務

- 全てが条件付き査定となり、査定後（R2年度末～R3年度）に**国との協議（計画変更）**が必要となる。

7 これまで県に応援に来ていただいた方々

- 令和2年10月以降、宮崎県から延べ3人、神奈川県、三重県から各1人の派遣をいただいています。（令和2年12月時点）
- 災害査定随行や事前協議、市町村支援等々、様々な業務に従事いただき、復旧・復興の大きな手助けとなっています。
- 引き続き、皆さまの暖かいご支援よろしくお祈いします。

・職場や宿舎の周りはお店も多く便利でした。
・出張に自家用車やタクシーを利用することに驚きました！

・職場の雰囲気がとてもよく仕事しやすい環境でした！
・休日は熊本ラーメンや熊本城を堪能♪

・豪雨はもちろんですが、熊本地震の被害も想像以上でした。
・九州なので暖かいと思っていたのに想像していた以上に寒い…



農地整備課（本庁）派遣



球磨地域振興局（出先）派遣

・若手職員も多く活気がある職場です。
・阿蘇や熊本城、黒川温泉など観光地も楽しみました。

・出先勤務で被災現場を見る機会が多く、被害の大きさを実感します。
・人吉市の朝の濃霧にも驚きました！

皆さまの応援に感謝

